

大山街道八王子道・千人同心日光往還道ウオーク

第7回 入間市駅から二本木地蔵前バス停

計画 集合 入間市駅改札口 9時30分

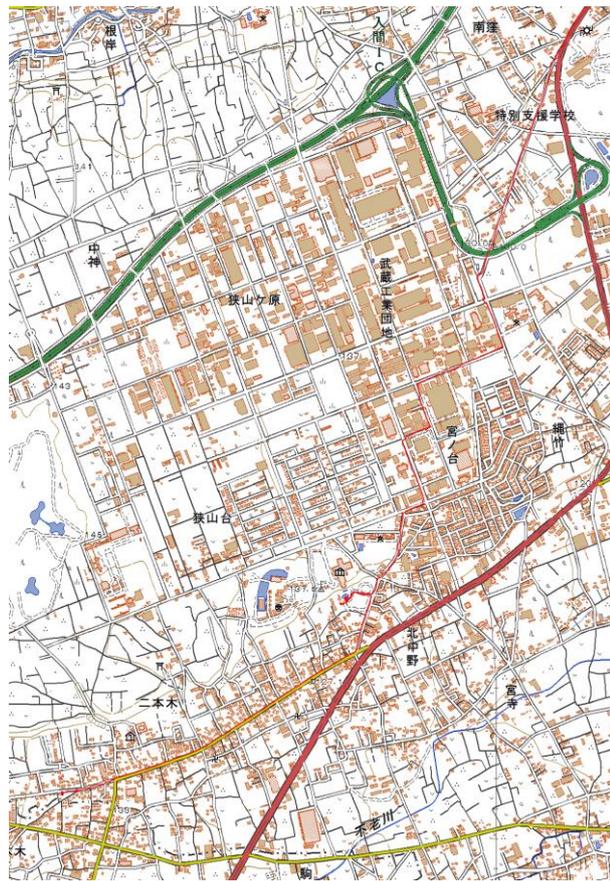
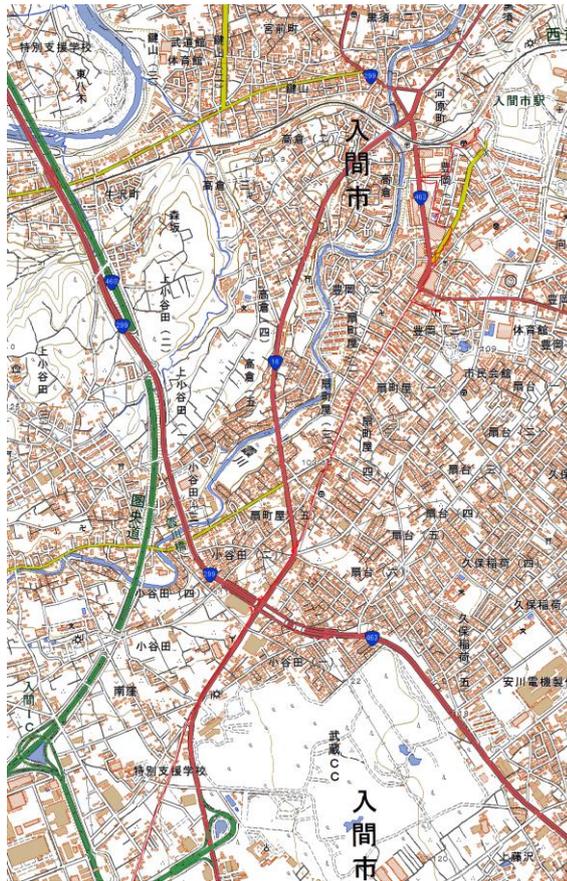
歩行距離 約8.3km。

第7回 入間市駅から二本木地蔵前バス停

実施日 2021(令和3)年10月20日(水) 快晴

参加者 折本文雄、杉田 勝行、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計 5名

コース 入間市駅南口～黒須坂～温故公園・道標～さんかくはし交差点～下町の道祖神道標・子育て地蔵尊～愛宕神社～中武馬車鉄道(都道63号線青梅入間線)～青梅道・地蔵堂・扇町屋上町道標・馬頭観音～R16分岐～狭山開墾記念碑～武蔵工業団地(旧陸軍狭山飛行場)～入間市博物館ALIT～二本木上宿道標～二本木地蔵堂～二本木地蔵前バス停 13:02⇒13:30入間市駅
写真は2019年5月23日の下見時と本日のものを使用。



GPSデータ

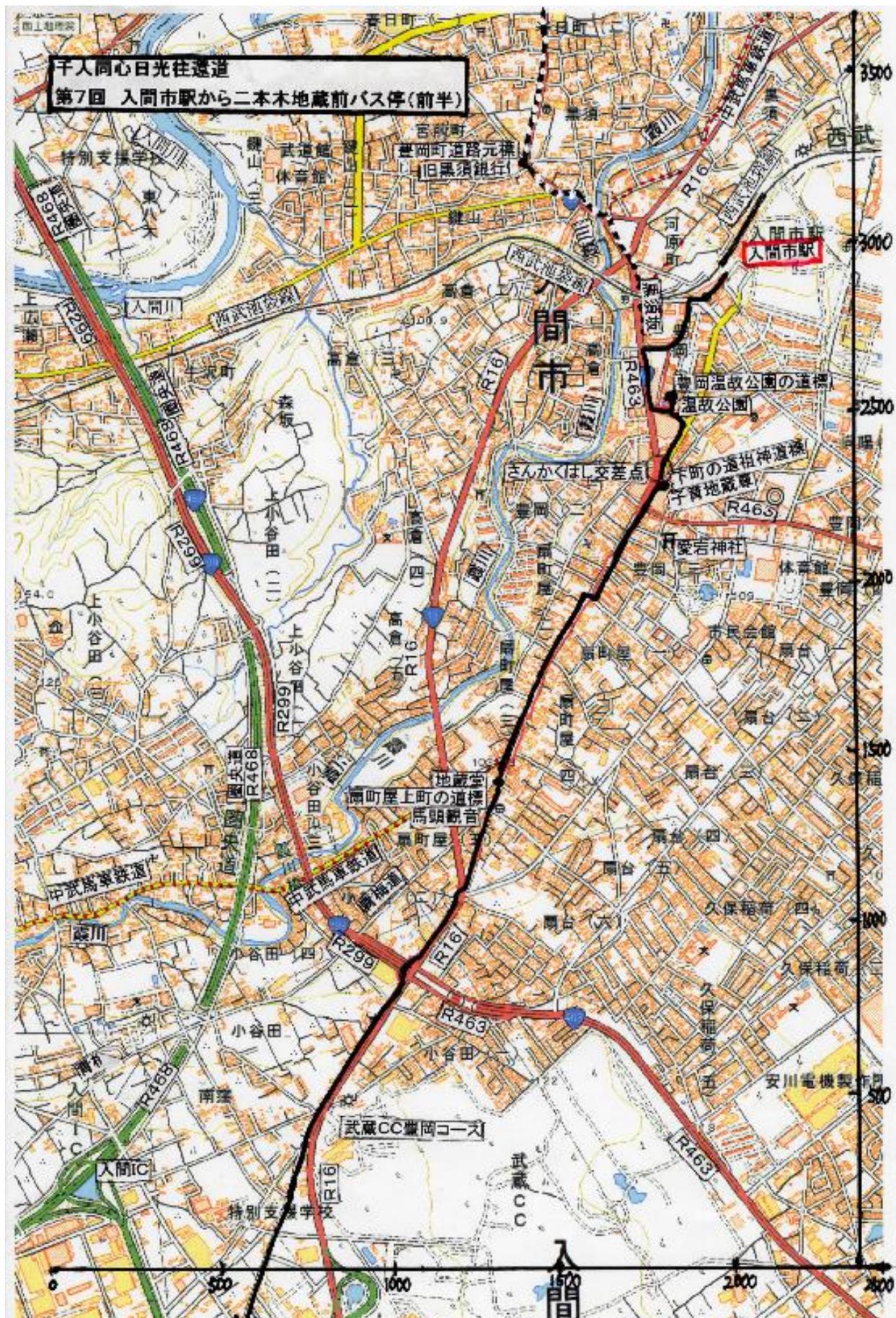
歩行距離：8.5km。 累計歩行距離 62.9km。

全体所要時間：3時間20分。移動時間：2時間12分。停止時間：1時間08分。

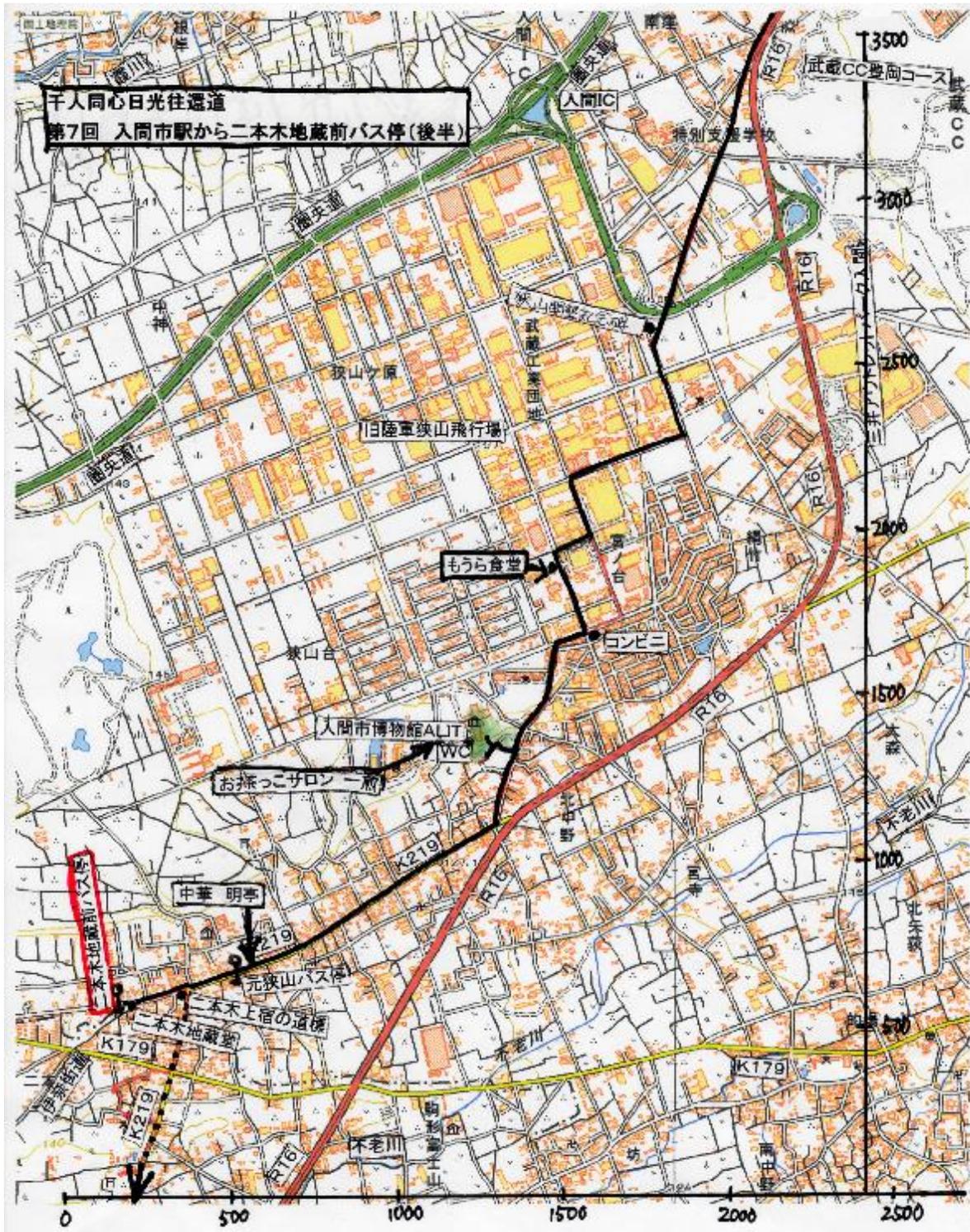
移動平均速度： 3.6km/h。全体平均速度：2.47km/h。

朝からくっきり晴、早朝は少し寒かったが素晴らしい天気。昨年12月の高萩駅から入間市駅までの第6回依頼のウオークである。コロナ禍のため緊急事態宣言が出され続け、やっと解除されて行くことが出来ました。

予定より早かったが、集合したので9時13分、入間市駅南口を出発した。



人間市駅から豊岡温故公園へのルートは当日変えて歩いていきます。



西武入間ペペと隣のビルの間を抜け右折し、直ぐの信号交差点（丁字路）を左折して、右カーブの下り坂の先で国道463号線に出る。この上る坂は黒須坂といい、大山街道八王子道旧街道で狭山市から青梅までを結んだ「中武馬車鉄道」が大正6（1917）年まで通っていた道。





黒須坂

少し戻って右折しマンション街を進み、150m程で左折すると「温故公園」の東北角に出る。この角の上にコンクリートで囲まれた祠らしきものが見えるので階段を上る。(9:25)



そこには、「道標」と「地蔵菩薩」「弘法大師、阿弥陀如来」が祀られたお堂が2軒ある。



「道標」には、『(右側面) 西 大山 あふき町屋 (扇町屋) 八王じ (八王子) 道』
 『(正面) 北 日光道 黒須村』
 『(左側面) 東 江戸 登こ路澤 (所沢) やきさは (柳沢) みち』
 『(裏面) 文字なし』

とあり、傍の「豊岡温故公園の道標」の解説板がある。

豊岡温故公園の道標 市指定史跡 指定年月日 平成三年八月一日

江戸から旧正丸峠を越えて秩父に入り、雁坂峠を越えて甲州に至る道は、秩父甲州往還として古くから開かれ、中世には重要な道として利用されていた。近世にはいり秩父霊場巡りが盛んになると、江戸から所沢、入間、飯能、吾野を経て秩父へと抜ける秩父往還として次第に整備されてきた。現在の東町から県立豊岡高等学校脇を通り黒須を経て笹井の渡しに至る道がそれである。

この道標は、初め秩父往還と日光脇往還が交差する現在の河原町交差点付近に建てられたものであるが、道路の拡張や新設、土地区画整理事業などにより現在地に移転されたものである。道標の造立年代

は不明であるが、道標と同じ場所に建てられたと思われる地蔵菩薩立像に延享四年（一七四五）の銘があり、この頃建てられたものと推定できる。

平成二十九年一月三十一日 入間市教育委員会 入間市文化財保護審議委員会

豊岡温故公園の道標
 とよおかおんこ
 市指定史跡
 指定年月日 平成三年八月一日
 江戸から旧五丸峠を越えて秩父に入り、鹿沼城を越えて甲州に至る道は、秩父甲州街道として古くから開かれ、中世には重要な道として利用されていた。近世にはいり秩父置塩場廻りが盛んになると、江戸から所沢入間、飯能、赤野を経て秩父へと接する秩父街道として次第に整備されてきた。現在の東町から原立置岡高等学校脇を通り黒須を経て笠井の渡しに至る道がそれである。
 この道標は、初め秩父街道と日光街道が交差する現在の河原町交差点付近に建てられたものであるが、道路の拡張や新設、土地区画整理事業などにより現在地に転移されたものである。道標の建立年代は不明であるが、道標と同じ場所に建てられたと思われる地蔵菩薩立像に延享四年（一七四五）の銘があり、この頃建てられたものと推定される。
 平成二十九年一月三十一日
 入間市教育委員会
 入間市文化財保護審議委員会



この一角の温故公園（第三公園 故きを温ねる公園）には「埼玉県 武蔵町立 豊岡小学校」の石門がある。



その角を左折し、信号交差点を渡り右折。150m程で国道463号線（旧街道）と合流する交差点。街道は、この交差点から拝島宿までほぼ一直線である。交差点上には「さんかくはし」と言われる歩道橋がある。



この交差点から扇町屋村が始まり、八王子寄りから上宿、中宿、下宿（現在の神町・中町・下町）に分けられていて、ここから下宿となる。交差点の東南角に「子育て地蔵尊」が祀られており、入口に市指

定史跡「道祖神道標」がある。(9 : 35)



[正面]



[左側面]



[裏面]



[右側面]

下町の道祖神道標

『(右側面) 従是 入間川 川越 道』

『(正面) 道祖神』

『(左側面) 従是 まつ山 日こう 道』

『(裏面) 武州入間郡扇町屋宿 願主是休 享和二壬戌歳正月』

とある。

この道祖神は、扇町屋の下町のはずれで日光へ向かう道と川越へ向かう道に分かれる所にあり、道標の役割を兼ねたものになっている。



[街道筋らしい雰囲気の建物]

豊岡交差点の50m程先の左の道を入った奥に「愛宕神社」がある。(9 : 4 2 ~ 4 6)



愛宕神社

祭神は、天照皇大神、別雷神、火産霊神、新田義興公。創建は不詳。

境内社は、蚕影神社、日枝・金比羅・八雲・御嶽・十三騎稻荷合社、三社合殿社。

愛宕神社所蔵の文化財

- ・志茂町屋台（市指定有形民俗文化財）・入間市景観五十選指定・埼玉県ふるさとの森指定
- ・首級の松（新田義興公首塚）・十三塚（新田義興公従者十三騎の塚）
- ・勝海舟揮毫の扁額（愛宕山）・芭蕉の句碑



[新田義興公首塚]



[従者十三塚]

「新田義興公首塚」並びに「首塚松」御由緒（境内説明板より）

愛宕神社の御祭神の一柱・南朝の忠臣である新田義興公は、新田義貞の子で、父の亡き後、正平七年宗良親王を奉じて新田一族と共に鎌倉の足利軍を攻めて鎌倉を一時占拠している。

その後も義興公は、足利軍の討伐を度々試みたが果せず、正平十三年十月十日、多摩川下流の矢口の渡りで、足利幕府の者により、義興公に従った十三人の勇士と共に謀殺された。

その後、主従の首は、入間川（狭山市）の足利基氏の陣で首実検された後、主は愛宕の社前に葬られ「首塚」となり御祭神になられた。その際「首塚」の目印に松・杉二本の枝を挿したという。

その松が根つき大きく育ちそびえていたが、伊勢湾台風で枯死する。現在の松は二代目で、隣接の古株が初代「首塚の松」である。

義興公の胴体は、大田区の矢口の渡し近くの新田神社「胴塚」に埋められています。従者は神社周辺に埋められ、十三士の塚が散在したが、都市化の波で貴重な塚が消え風化を憂慮して「十三塚」をこの地に移転した。（この物語は古典太平記に掲載されている）

「埼玉の神社」による愛宕神社の由緒

当地は『風土記稿』に「正保の頃(1644~47)まで僅に七十石の小村なり」、また「三八の日毎に市立」とあり、農耕の地としてより、後世、日光と八王子の街道馬継の地、交通の要所として栄えた所である。社記に、「創立は武蔵野の開発と共に天照大神を祭祀し産土神と崇む」とあり、口碑に神明社と号し地名を神明久保と呼んだとある。

正平一三年(1358)、新田義興は足利基氏を討たんとして矢口の渡しに戦死し、基氏は当地の陣屋で義興の首を実検の上、当社の傍らに埋葬する。その後、基氏の陣屋に落雷が続き、この火災は民家にまで及んだ。

また疫病も流行し、義興の祟りであるとの風説が起こる。基氏は民心の動揺を鎮めるため、正平一六年(1361)、義興の像と同人所持の雷神を描いた軍扇を神体とする新田大明神を当社に合祀する。口碑に、扇町屋の地名はこの時起こるといふ。しかし、当地の災害はおさまらず、元中五年(1388)の雷火は激甚を極めたため、村人は怖れて加茂別雷神社に請い、雷斧一口と雷丸一個を神体として分霊を合祀する。以来災害は起こらず、慶安二年八石の朱印を受ける。寛政二年の境内図には、神明社・新田大明神・愛宕権現の三社合殿が描かれ、『風土記稿』には「愛宕権現新田大明神合社」とある。(後略)

街道に戻り750m程進んだ扇町屋三丁目交差点で、斜め右に入る一直線の道は「中武馬車鉄道」の跡である。(10:01)



中武馬車鉄道は

川越鉄道(現・西武国分寺線と東村山駅から本川越駅)の入間川駅(現・西武新宿線狭山市駅)の西口から狭山市鶴ノ木〜入間市黒須を通り、ここ扇町屋から県道63号線の入間市小谷田・根岸・三ツ木・南峯・金子橋で青梅市に入り、都道63号線を七日市場・大門・師岡・坂下と進み青梅の森下までの延長約18kmの馬一頭に1両の客車を牽引する馬車鉄道で明治34年(1901)開業、大正6年(1917)に廃業。

扇町屋三丁目交差点から50m進むと、また、右斜めに入る道がある。「青梅道」である。日光脇往還と青梅道の分岐に「地藏堂」と「馬頭観音」、「扇町屋上町の道標」がある。(10:02)



「馬頭観音」は道標を兼ね、文政三年(1820)の建立。



(左側面) 八王子 大山 道

(正面) 馬頭観音

(右側面) 青梅 みたけ 道



とある。

細長い石塔の「扇町屋上町の道標」は、安政三年(1856)の建立。

(左側面) 婦し山 大山 高尾山 今熊山 道

(正面) みたけさんみち 是より御本社へ七里

(右側面) 青梅町 當所願主 道 小河内原湯 江嶋屋半六

(裏面) 安政三年丙辰二月 法眼董斎祐書 石工宮豊蔵

とある。



扇町屋上町の道標 市指定有形文化財(史跡) 指定年月日 平成三年八月一日

江戸時代の主要な通りであった日光脇往還と青梅道が扇町屋村(現入間市)の上町で合流するが、ここに建てられたのがこの道標である。当時、扇町屋村宿継場はここから北に向かって、長さ六丁(654.5メートル)、道幅八間(14.5メートル)余、戸数九十軒、左右に軒を連ね、三・八の日ごとに米穀や雑穀の市が立つなど賑わいを見せていた。また、日光勤番に当たる八王子千人同心が日光へ向かう昼食地であり、帰りの宿泊地でもあった。

道標は、御岳山・本社（武蔵御嶽神社）、富士山、高尾山、大山、今熊山といった信仰の地を示す名称や、青梅、小河内原湯といった行先を示す名称が刻まれている。扇町屋村で旅籠と料理屋を営んでいた江嶋屋半六が願主となり、安政三年(1856)二月に建てられたものである。

この道標は、当時の山岳信仰の巡礼や交通の様相と、扇町屋村宿継場の盛況を伝えるものとして貴重である。 平成二十七年八月 入間市教育委員会 入間市文化財保護審議委員会



地藏堂の元禄五年(1692)銘の地藏菩薩は、正面に6人の女性の名、側面に男性19人の名がある。これらの人々が3年間の念仏の行を終えて、多くの人々と共に極楽往生を願って建立した由来が刻まれている。「右 おう免みち 左八王子みち」と刻まれ、道標も兼ねていた。



五差路で国道16号線に合流。250m程先のバイパスを歩道橋で渡る。



少し先に「R16横浜より62km」の距離標がある。440m程先の小谷田（南）交差点（左側に武蔵カントリークラブ豊岡コースの入口がある。）の次の信号で国道16号線から右に入り直進する。(10:32)





圏央道と国道16号線を結ぶ自動車道の下を潜ると突き当たるので左折。この右側に「狭山開墾記念碑」がある。(10:47)ここから旧道は消滅し、武蔵工業団地(旧陸軍狭山飛行場)の中をジグザグに進むこととなる。信号交差点を直進し、右への最初の道に入り、370m程で左折、180m程を右折、110m程を左折、260m程の交差点を渡って右折。80m程で左の道に入る。この道が飛行場で消滅した旧街道である。



街道は右にカーブし下る。西武バス専用折り返し場(入間市博物館バス停)の先に「入間市博物館ALLIT」の東門があり、中の庭にトイレがある。庭園の池に突き出た踊場で昼食をとる。(11:19~12:03)



博物館庭園から旧街道を進み、その先で国道16号線に近づくが、合流せず、右に曲がって県道219号線を進む。博物館庭園から1.3km程進むと2個目の信号交差点があり、(旧街道大山街道八王子道・219号線は左折するが、今回は左折せず、直進する) 交差点の南西角に「二本木上宿の道標」がある。12:26

交差点の西南角に「二本木上宿の道標」がある。(12:26)



二本木上宿の道標

『左 八王子 大山』『右 青梅』とある。

二本木上宿の道標 市指定史跡 指定年月日 平成三年八月一日

八王子と日光を結ぶ日光脇往還(通称日光街道)は、八王子から拝島、箱根ヶ崎を経て二本木の上宿で、青梅の新町から新河岸に至る街道(通称河岸街道)と合流する。その合流点に建てられたのがこの道標である。二本木宿は、八王子千人同心が日光勤番の際の宿継場として栄え、当時の記録によると、道幅四間余、戸数百七十余であったといわれており、現在でもそれぞれの家の屋号に当時の盛況ぶりを窺うことができる。道標は銘文によれば延享元年(1744)に上町の人々が交通の安全を願って建てたものであることがわかる。単独の道標としては市内最古である。

平成三年十二月 入間市教育委員会 入間市文化財保護審議委員会



直進すると三叉路となり、その間に「二本木延命地藏尊」の祠があり12:31、左斜めへの道は伊奈街道といい、五日市方面へ行き、直進する道は青梅方面へ行く道で、直ぐ先に今日のゴールの「二本木地藏尊前バス停」があり、12時33分に到着。今日はここまで。

ベンチで13時02分発の入間市駅へのバスを待つ。

二本木上宿の道標から直進150m程行った所に三叉路があり、二本の道(右は青梅道、斜め左は伊奈街道で五日市方面へ)の間に「二本木延命地藏尊」のお堂がある。(12:31)説明板は無く詳しくは分からない。

右の道の直ぐ先に今日のゴールの「二本木地藏尊前バス停」があり、12時33分に到着。



今日はここまで。ベンチで13時02分発（始発）の入間市駅へのバスを待つ。

10ヶ月ぶりのウォークはコロナ禍で歩くこともままならず、筋肉は衰えていると思ったが、快晴の下で歩く楽しみを再認識した街道歩きでした。

以上